

世界自然遺産登録を目指して-I

2007（平成19）年2月28日、南アルプスの世界自然遺産登録を目指し、南アルプス世界自然遺産登録推進協議会が結成され、南アルプスの自然を再評価するための行動が開始されました。そこでは、南アルプスの自然の特色である陸上に隆起したプレート付加体や、急速な隆起と温暖多雨な気候を反映して活発に変化する地形などの地学的過程をはじめ、氷河時代の生き残りといわれる動植物の生息環境、高山帯下方に広がる広大な天然林など、南アルプス全域に広がる様々な物事や自然現象が顕著で普遍的な価値を有することを再認識し、評価するための活動を行っています。

国の機関（環境省、林野庁）、県（山梨県、長野県、静岡県）、関係市町村、大学研究室、登山者グループ、山岳関連NPO団体など、南アルプスに関係する様々な組織や人々の取り組みも行われています。

南アルプスの自然遺産

地形・地質遺産

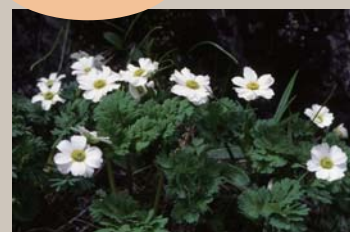


小太郎尾根の二重山稜と甲斐駒ヶ岳



聖岳一兎岳コルの赤色チャートと崩壊が進む聖岳西側斜面

氷河期の生き残りといわれる動植物



キタダケソウ

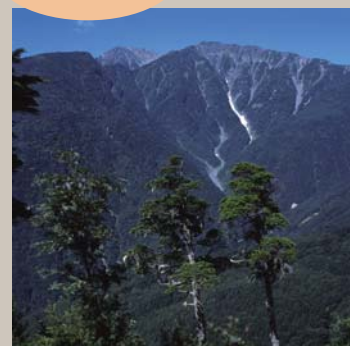


チョウノスケソウ



ライチョウ

高山帯下方に広がる広大な天然林



大井川源流の森林と小赤石岳・赤石岳



天然林を縫って流れる野呂川



シラビノ林



シラビノ林の倒木更新

多様な南アルプスの自然（山岳）景観



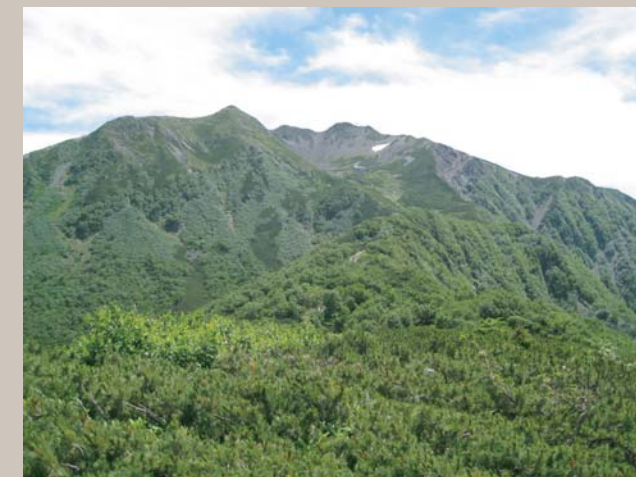
紅葉と花崗岩の白い岩峰が美しい甲斐駒ヶ岳



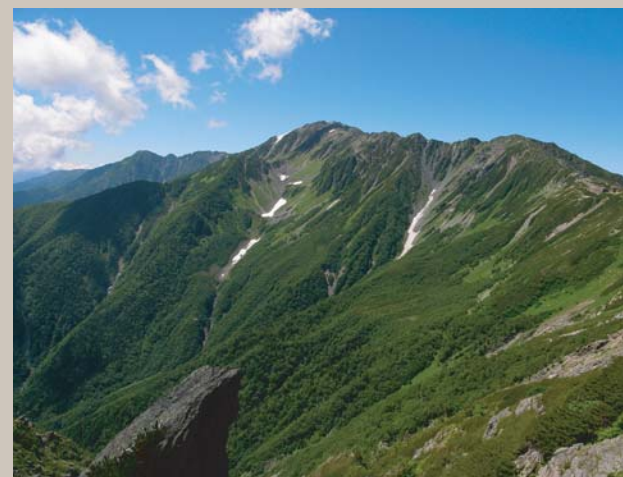
観音岳より冬の雄々しい北岳



地藏ヶ岳の神々しいオパリスク



なだらかな山容と緑が美しい仙丈ヶ岳



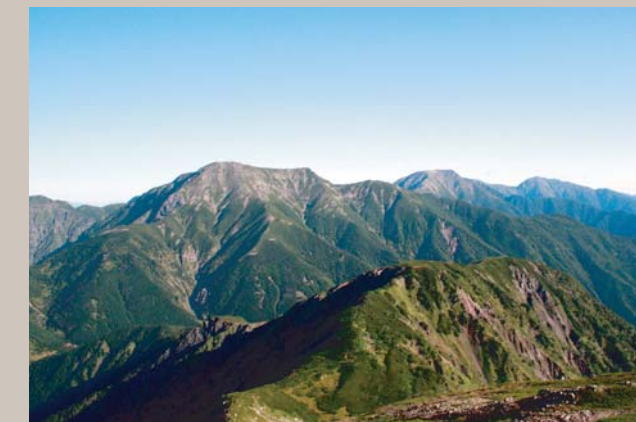
夏の深緑が美しい間ノ岳



雪で真っ白になった間ノ岳



紅葉の牛首峠から赤石谷のV字谷をとおして赤石岳を望む



上河内岳山頂から南アルプス南部の3,000m峰を望む（左前方から右後方に向かって聖岳、赤石岳、悪沢岳）